

令和３年度

新潟県内の雪氷期における各種取り組みについて

日時：令和３年１１月９日（火）１４：００～

場所：アートホテル新潟駅前 ４階会議室（越後の間）

１ 説明者

- （１）国土交通省 北陸地方整備局 道路部 道路情報管理官 まつなが かずひこ 松永 和彦
- （２）ＮＥＸＣＯ東日本 新潟支社 道路事業部 部長 くぼ りゅうし 久保 竜志
- （３）ＮＥＸＣＯ東日本 新潟支社 総合企画部 部長 こばやし なおき 小林 直紀

２ 説明内容

- （１）昨冬の大規模滞留を踏まえた「今冬に向けての取り組みとお願い」について（資料－１）
- （２）令和３年度雪氷期における取り組み強化について（資料－２）
- （３）乗員保護訓練の実施について（資料－３）

３ 質疑応答

以 上

昨冬の大規模滞留を踏まえた「今冬に向けての取り組みとお願い」

国土交通省北陸地方整備局
東日本高速道路株式会社新潟支社

昨冬の関越自動車道や北陸自動車道での大規模車両滞留を踏まえ、「大雪時の道路交通確保対策 中間とりまとめ」が R3 年 3 月に改定されました。この改定により「人命を最優先に幹線道路上での大規模な車両滞留を徹底的に回避すること」に基本的な考え方が転換されたことを受け、今冬に向けての北陸地方整備局及び NEXCO 東日本新潟支社からのお願いについてお知らせします。

■今冬の取り組み

- 大雪が予想される場合は、事前に「情報連絡本部」を設置し関係機関と調整
- 集中的な降雪により車両滞留の発生が予想される場合は、高速道路と並行する国道の同時通行止めも含め、躊躇無い通行止めを実施
- タイムライン（段階的な行動計画）を作成し、関係機関と共有
- 大規模な滞留が発生した場合を想定し、乗員保護訓練を実施

■大雪が予想される場合の緊急発表、合同記者会見の実施について

- 大雪が予想された場合に関係機関による緊急発表の前倒し（1 日前倒しして概ね 3 ～ 4 日前）
- 大雪となる地域、降雪量が予想された段階で関係機関と合同記者会見（1 日前倒しして概ね 2 日前）
- 幹線道路（高速道路・直轄国道）の通行止めの可能性を繰り返し発表し、出控え要請、行動変容を促す
- やむを得ず外出される場合は、情報収集や食料等の備えを

■大雪時の除雪体制について

- 高速道路と直轄国道が連携した除雪オペレーション
 - ① 予防的通行止めに対する対応
 - ② 事前インター閉鎖に対する対応

■道路情報提供の改善

- 定時的にホームページ、Twitter により配信。テレビや文字放送、ラジオ等のメディアの協力を得て情報提供
- 高速道路と並行する国道等を同時通行止めする際は、早期に開始時刻、区間を発表

高速道路における大雪時の対応方針



資料 - 2

昨シーズンの関越道大規模車両滞留などを踏まえ、国の「大雪時の道路交通確保対策中間とりまとめ」の改訂(R3.3)や、北陸地方整備局・北陸信越運輸局・新潟県及びNEXCO東日本新潟支社の「関越道集中降雪による対応検討会中間とりまとめ」の提言(R3.3)に基づいて、今冬における大雪対応の方針として定めたもの。

- **人命を最優先に、大規模な車両滞留を徹底的に回避**する対策を実施する。
- 県内冬期道路ネットワークの確保に向け、**国や県等との相互連携**を図りながら、**保有する除雪体制がしっかり発揮**できるように準備するとともに、**5つの力(対応力・情報力・予防力・予測力・基盤力)**を**強化**することで、高速道路の通行確保に集中的に取り組む。

1.大雪予想時の出控え等広報の強化

(1)早め早めの情報提供と現況情報の共有

- 関係機関(気象台・整備局・運輸局・NEXCO)と連名による緊急発表の前倒し [情報力]
- より詳細な情報は、概ね2日前に関係機関と合同記者会見を実施[情報力]
- 通行止め予測(区間や時間帯)の定期発表 [予測力]
- 早い段階から出控えや広域迂回などをお願いする情報提供を繰り返し多頻度で実施[情報力]
- 路面の積雪状況について、HPで公開している道路画像により常時提供 [基盤力]

(2)情報提供手段の強化

- テレビローカルCM、ラジオ、情報板、ハイウェイラジオ、HP、SA・PAにおけるデジタルサイネージ、Twitterなどに加え、LINE公式アカウントを(11/20)開設 [情報力] ⇒〈別紙①参照〉
- メディアの皆様へ、こまめな情報提供(1時間毎)による協力体制の強化 [情報力]

2. 滞留を発生させないための対策強化

(1) 除雪、監視体制の強化

- ・ 応援要員も含め、**事務所当たり約500名規模**の人員体制を確保[対応力] ⇒〈別紙②参照〉
- ・ 塩沢石打～六日町IC間などに**除雪梯団を増強(2梯団)**⇒当該区間の除雪力が1.3倍～2倍
[基盤力]
- ・ 滞留の起点となったランプ部等に**消雪装置の新設(2箇所)** [予防力]
- ・ 道路カメラの増設(去年の関越道滞留発生以降で新たに**約100台設置**) [基盤力]
- ・ マップやアニメで**スタックやチェーン装着に関する注意喚起** [情報力] ⇒〈別紙③参照〉

(2) 計画的IC閉鎖、予防的（広域）通行止の実施

- ・ 緊急発表するような大雪の場合に限り、IC部でのスタックリスクの低減と本線除雪能力の向上のため、**一部ICを事前計画的に閉鎖** [予防力] ⇒〈別紙④参照〉
- ・ 降雪強度が強い場合や車線閉塞する事故、スタック車が発生した場合など、当該箇所に車両が集中し大規模な滞留とならないよう**予防的かつ広域的な通行止を実施**し、集中除雪により早期解除を目指す [予防力] ⇒〈別紙⑤参照〉

3.関係機関と連携した速やかな乗員保護の強化

(1)乗員保護オペレーションの確立

- ・乗員保護活動本部や現地調整所等の立上げ [対応力]
- ・滞留時間に応じた4段階の乗員保護オペレーション と関係機関との合同訓練の実施 [対応力]⇒
〈資料-3参照〉
- ・ビークル協会との災害協定の締結と直営バギー隊の新設 [対応力]
- ・一般道とのアクセスが良い5箇所[※]に法面避難階段(仮設)を設置[基盤力]
- ・グループ会社と連携した炊き出し食品の自主調達(約1000食分確保※) [対応力]

※さらに必要数が多い場合は県に応援要請を行う

(2)早期に滞留車両を排除する体制の強化

- ・事故やスタック車両の早期排除のため、トラクターショベルやレッカーの事前配備(約10台増車)
[対応力]
- ・大型車がUターンしやすいように中分開口部(9箇所)を拡幅(6m⇒約12m)[基盤力]

LINE公式アカウントによる冬道情報の提供

別紙①

11月20日より、一般公開予定!

これさえ登録していれば冬道も安心

LINE公式アカウントで、冬道走行に役立つ最新情報を発信しています

1

通行止め予測・重要なお知らせ

- 新潟県内の通行止め予測等
- 高速道路影響サイト

天気予報を念まえ、今後の通行止め見込みなどをお知らせします。

2

高速道路気象予測

高速道路のピンポイントの天気を確認することができます。富山県などNEXCO中日本管内の天気もチェックできます。

3

道路映像

- 高速道路
 - 一般国道(新潟県)
- リアルタイムの道路映像を確認することができます。



ご利用はLINEアプリで
友だち登録をお願いします



QRコードで登録

ホーム 友だち追加 QRコード読み込み

ID検索で登録 @kousoku-fuyumichi

ホーム 友だち追加 ID検索



4

冬道走行でのお願い

- 冬道ドライブ
- なぜスタックが起こるの?(動画)
- スタックが発生しやすい箇所(地図)

昨年度、大規模対応を引き起こしたスタックが起こる原因や発生しやすい箇所などを確認できます。

5

ドラとら

全国の高速道路の交通情報サイト。リアルタイムの状況を確認できます。

6

Twitter (NEXCO東日本 新潟)

Twitterでもさまざまな高速道路の情報を発信しています。



天候や渋滞、通行止め…。

冬の高速道路って不安なんだよね

そんな時は
今すぐLINEで
友だち登録!



冬の高速道路情報をLINEでお届けします

通行止め予測情報

天候や積雪から、通行止めが予測される区間をお知らせします。

ピンポイント気象予報

気になるお出かけ先の天候、高速道路で通るエリアの天候をピンポイントで知ることができます。

リアルタイム高速道路映像

渋滞や天候など、実際のようすをリアルタイムカメラの映像を通して見るすることができます。

天気予報が悪い時は、
不要不急のお出かけはお控えいただき、
必要に応じて迂回ルートを選択をお願い致します。

緊急発表を行う大雪時の体制規模

別紙②

NEXCO

(1)体制規模の拡大

通常の降雪時には、各事務所グループ全体で約300人規模の除雪体制を構築しているが、地方気象台・国土交通省による「大雪に関する緊急発表」が行われた場合など、異常降雪時には、**約200名規模の応援要員を事前に配置**し、総勢500人規模の除雪体制を構築します。

なお、支社管内全体で異常降雪になった場合における管内全体の総動員数は、1500人～2000人規模となる見込みです。

(2)異常事案の早期発見と現地状況の確認

事故やスタック車両、万一車両滞留が発生した場合の早期発見のため、道路カメラを大幅に増設するとともに、**巡回・計測を行う専門人員を40人（2人/班×20班）増員**し、あらかじめ現地へ派遣して「現場状況の迅速な把握」にあたります。

さらに、**バギーやスノーモービル（最大6台）も事前に配備**し、「救援物資の配布」など、乗員の皆様の支援を速やかに実施します。

なお、これらの現場状況は社内で開発したタブレットアプリに入力されて、**関係者全員にリアルタイムに共有される仕組みを構築**しました。



救援物資配布状況イメージ
(R3.1.28乗員保護訓練状況)

スタックやチェーン装着に対する注意喚起

別紙③

NEXCO

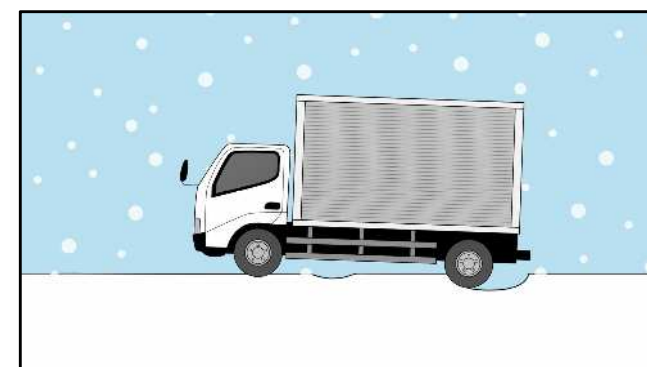


スタックがなぜ発生するのか
メカニズム紹介アニメ

【監修】

福井大 藤本准教授

新潟大 河島教授



計画的IC閉鎖の試行

別紙④

NEXCO

大雪が予想される区間や時間帯から、一部のICで予め日時を定めて閉鎖する
－ 関係機関と合同で「大雪に関する緊急発表」が行われた場合 に実施 －

ICランプ部の
状況

雪堤が高く、
堆雪ポケット
も少ない



料金所の状況

施設が多く、
スムーズな
除雪が困難



幅員が狭く、
スタックが発
生した場合の
処理に労力
を要する



ICからの
本線滞留事例
(上越IC)

ICランプで
発生したス
タック車両
が起因して
発生



計画的IC閉鎖の実施イメージ

別紙④

NEXCO

【目的】

①スタック・事故の発生リスク軽減

強雪時にスタック・事故の発生リスクが高いICを予め閉鎖して、車両滞留を予防する

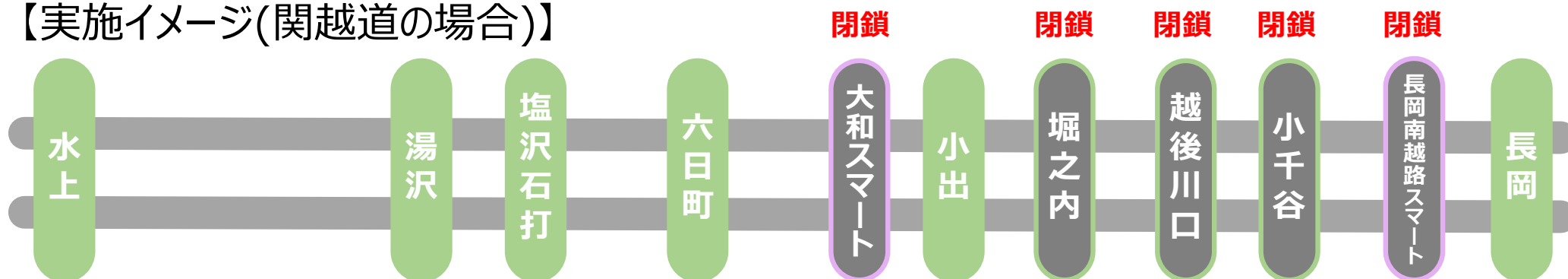
②除雪力をできるだけ本線に集中

本線の除雪力を高めて、路面コンディションを良好に保ち、車両滞留を予防する

③大雪時の出控え車両の誘発

高速道路による域内(短トリップ)利用が少なくなることで交通量が抑制されて、車両滞留を予防する

【実施イメージ(関越道の場合)】



注1:入口だけではなく、出口も閉鎖されるため、例えば長岡ICより東京方面の出口は小出ICとなる

注2:計画的IC閉鎖箇所は、その時の降雪予報や出入り交通量、一般道とのアクセス性などで選定し、遅くとも合同記者会見で事前公表する

予防的(広域)通行止めの試行

別紙⑤

NEXCO

(1) 予防的通行止め

降雪が継続し、さらにその後高強度の降雪が予測される状況において、「路面積雪状況の悪化」や「本線・ランプ部における路肩の堆雪ポケットの確保が困難」といった場合に、予告（概ね3時間前より広報）のうえ通行止めを実施して集中除雪を行い、早期の通行止め解除を目指す。

(2) 予防的(広域)通行止め

①及び②の事案が発生した場合に、大規模な車両滞留の発生を防ぐため、当該IC区間のみならず、次図に示す範囲を速やかに予防的な観点から広域通行止めを実施して、事故やスタック車両を排除後、集中除雪を行う。

- ①強雪状況下において、スタック（あるいは事故）により全車線あるいは一部車線がふさがれた場合
- ②強雪ではないが、スタック（あるいは事故）により全車線がふさがれた場合

雪害時の乗員保護に関する訓練概要



資料 - 3

1.実施日時

令和3年11月16日(火) 9:30~12:00

2.実施場所

- (1)乗員保護活動本部 … 北陸地方整備局
- (2)現地調整所 … 湯沢IC(湯沢町役場想定)
- (3)避難所 … 湯沢管理事務所(避難所想定)
- (4)現地対応 … 湯沢IC(関越自動車道本線想定)

3.参加機関

北陸地方整備局、北陸信越運輸局、新潟県、湯沢町、NEXCO東日本新潟支社

4.雪害想定

関越自動車道 湯沢IC~小出IC(上り線)で約500台の滞留車両が発生

事前に大雪に関する緊急発表があり計画的IC閉鎖を実施していたが、上り線の塩沢石打SA付近で大型車のスタック車両が発生し、速やかに予防的広域通行止めを行ったものの、それを先頭に車両が滞留した想定。
なお、約500台の滞留車両の根拠は、情報板で通行止めを表示するが、物理的な通行止めには30分程度掛かるため、平均的な時間交通量から最大値として算定したもの。

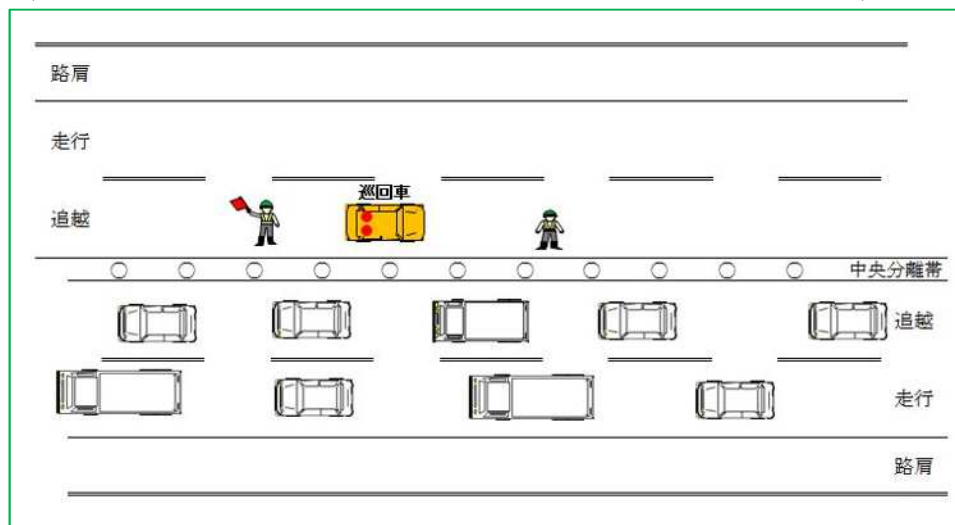
5.訓練内容

- 1)【情報伝達訓練】Web会議接続による情報伝達
- 2)【滞留車両計測訓練】道路巡回車や徒歩により滞留車両の概数を把握し開放時間の見込みを算定
- 3)【救援物資配布訓練】バギー隊による救援物資 ※簡易食糧や簡易トイレ、お客様への情報提供(H P・LINE・ツイッター・地域FM局等の案内チラシ)の配布
- 4)【情報提供訓練】巡回車の拡声放送による情報提供、高速道路冬道情報LINEによる情報提供
- 5)【災対法告示訓練】災対法に基づく車両移動に関する看板の設置
- 6)【一時避難所設置・誘導訓練】反対車線に一時避難用のバス(トイレ付き)休憩所を配置し、中央分離帯に仮設デッキを設置のうえ、滞留車両の乗員をバス休憩所まで誘導
- 7)【避難所移送訓練】避難を希望する乗員を避難所へ移送

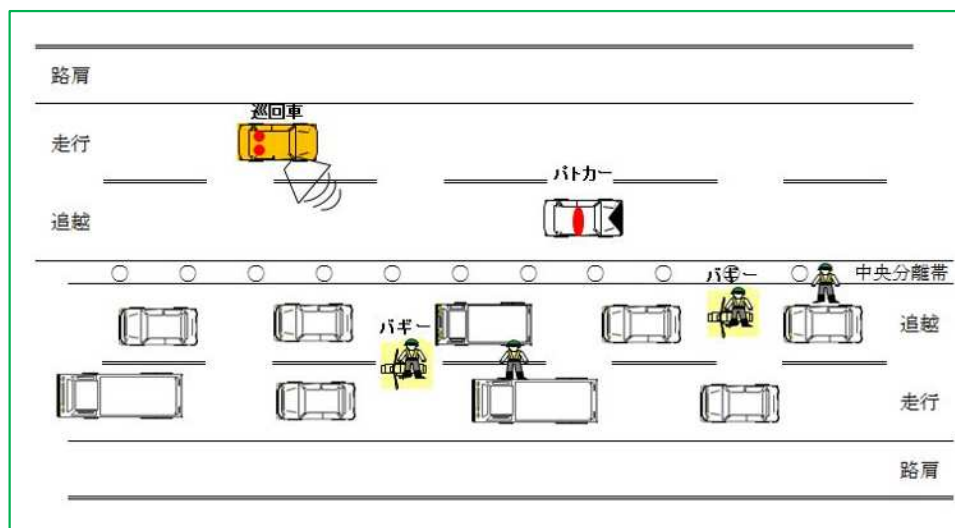
4段階の乗員保護オペレーションイメージ



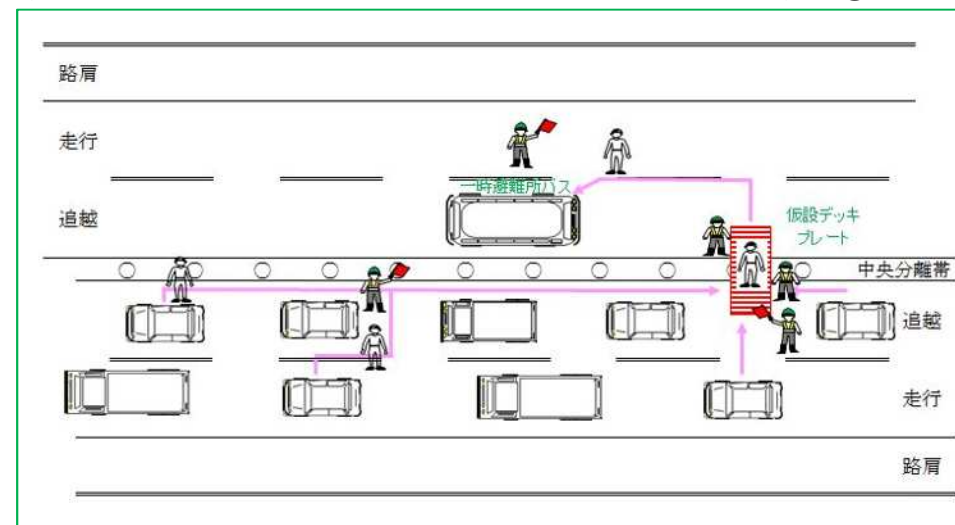
① 滞留時間0～3h ※同時に事故、スタック車両の排除を実施 〔滞留台数概数把握、滞留見込み時間の判断〕



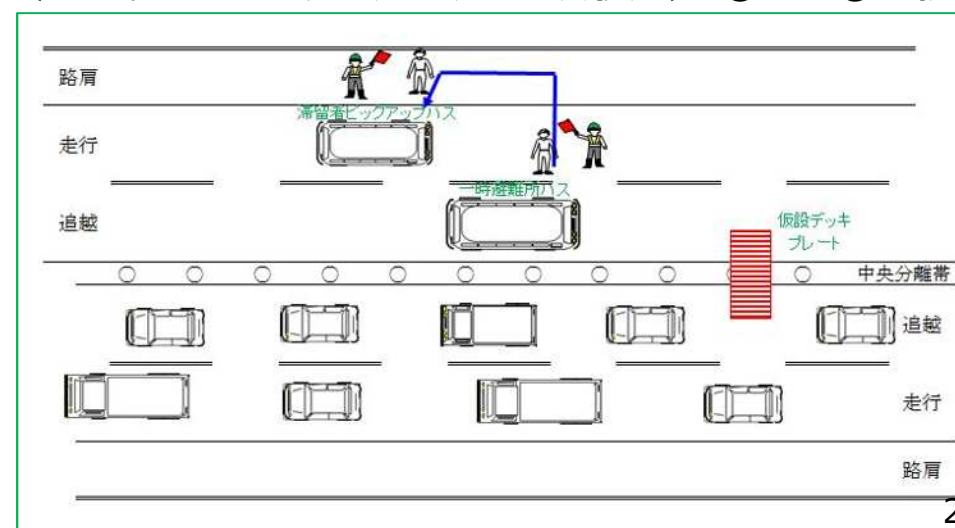
② 滞留時間3～12h 〔食料等救援物資配布、情報提供、安否確認〕



③ 滞留時間12～24h 〔乗員一時避難用のバス休憩所設置・乗員誘導〕+ ② 継続



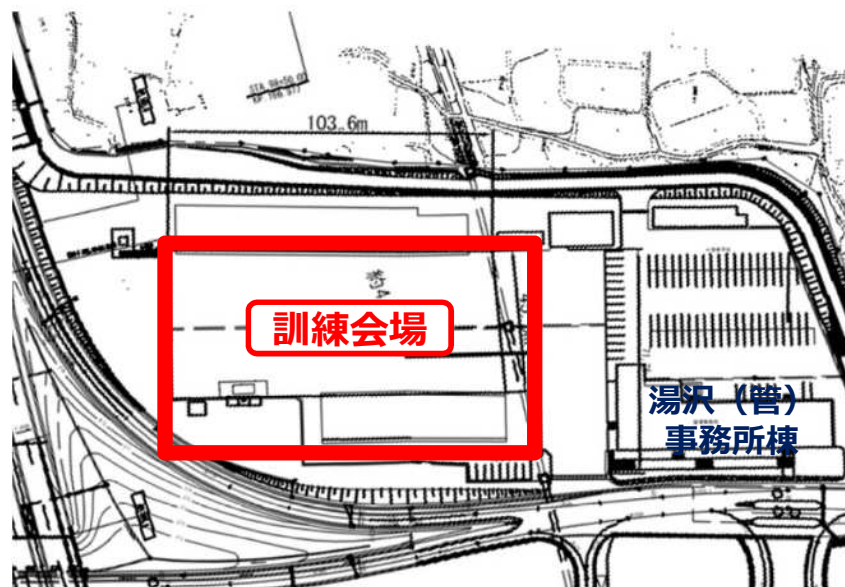
④ 滞留時間24h～ 〔希望する乗員を現地避難所へバス移送〕+ ② 及び ③ 継続



訓練会場（関越自動車道 湯沢 I C）



湯沢 →
料金所方面



湯沢 →
料金所方面

← 湯沢
料金所方面



訓練会場設営図

NEXCO



乗員保護（救援物資内容の事例）



追加配布予定軽食例

滞留発生初期段階における配布物資例
(非常食・飲料・非常トイレ・防寒キットをジッパー付き袋)

配布物資にはこの他、乗員の皆様が
情報収集できる案内チラシを同封
(冬期道路情報LINEや地域ミニFM局などを案内)



一時避難用バスにおける
提供予定食事の例